

5歳児と自然のかかわり (2)

－保育者のかかわり方を中心に－

斎藤 健司¹⁾*・鈴木 恭子²⁾・高月 教恵¹⁾

1) 新見公立短期大学幼児教育学科 2) 元岡山県井笠管内三郡保育協議会

(2017年11月15日受理)

子どもが自然とかかわることの重要性が再認識されている。近年の研究の進展により、子どもに自然に触れたり、友達と体を使って遊んだりした体験が多いほど、非認知能力の発達にプラスの影響をもたらしていることがわかってきた(独立行政法人国立青少年教育振興機構 2012)。保育現場において、自然とかかわりをテーマにした実践研究は多く行われているが、近年の研究の進展とともに、実践研究からより良い保育の方法を導き出すことの重要性が一層高くなってきた。

本研究では、5歳児と自然とかかわりについて、担任保育者の1年間にわたる保育実践記録を基にして分析を行い、保育者のかかわり方について考察をした。保育者が十分な環境構成を行い、子どもとともに自然にかかわることで、子どもの遊び込みの経験の増加につながるのではないかと考えられる。

(キーワード) 乳幼児、保育内容「環境」、領域指導法

1. はじめに

以前より子どもが自然とかかわることは、豊かな人間性を育み、生きる力の基盤を作るなど、子どもの成長の糧として重要な役割を果たすと認識されてきた(文部省 1996, Brown 2000)。近年の研究の進展により、子どもに自然体験と、その後の知的、情緒的な発達に関係があることがわかってきた(Heckman 2001, Bowles 2001)。独立行政法人国立青少年教育振興機構が、幼児期から義務教育修了までの各年齢期における多様な体験とそれを通じて得られる資質・能力の関係を調査したところ、子どもに自然に触れたり、友達と体を使って遊んだりした体験が多いほど、「意欲・関心」「規範意識」「職業意識」など非認知能力の発達にプラスの影響をもたらしていることが明らかになった(独立行政法人国立青少年教育振興機構 2012)。また、ベネッセが、幼稚園、保育所、認定こども園などに通う年長児を持つ保護者を対象に調査したところ、「遊びこむ経験」が多い子どもが「学びに向かう力」も高いことが明らかになった(ベネッセ教育総合研究所 2016)。

これまでも保育者は、経験的に自然環境を生かした子どもの遊びの重要性に気づいていた。しかし、遊びを重視した保育の方法は、画一的に指導法を作ったり数値化したりするのが難しく、保育者個々の資質や能力にゆだねるところが多かった。近年、子どもの遊びの重要性がデータで裏付けされ始めたことにより、保育者はこれまで積み上げて

きたいくつかの実践に根拠をもって取り組むことが出来るようになった。保育現場において、自然とかかわりをテーマにした実践研究はこれまでも多く行われていたが、近年の研究の進展により、実践研究からより良い保育の方法を導き出すことの重要性が一層高くなってきた。

本研究では、5歳児と自然とかかわりについて、担任保育者の1年間にわたる保育実践記録を基にして分析を行い、そこで行われたやり取りを整理することにより、保育者のかかわり方について考察を行った。調査対象は、考えや行動の中に「心情・意欲・態度」などの非認知能力が表れやすい5歳児を対象とした。保育者のかかわり方について、保育者と5歳児クラス全体とかかわり、保育者と転入児E子とかかわりの2つにカテゴリーを分けて考察を行った。

2. 方法

観察対象の子どもは、岡山県のO保育園(2、3歳児混合10名、4歳児クラス17名、5歳児クラス13名、職員5名)の5歳児クラスのE子(6月6日生)である。記録は、E子の保育者(担任:筆者の鈴木)が園で共に生活する中で行動観察を実施して記録した。観察は、E子と5歳児クラスの子どもの様子を、1年間にわたり自然とかかわりを中心に記録した。この期間中、毎月1回、筆者の高月と岡山県井笠管内三郡13保育園の代表保育士(観察者を含む)で研究会を開催し、観察記録に基づいて検討を行い、子どもの育ちと

*連絡先: 斎藤健司 新見公立短期大学幼児教育学科 718-8585 新見市西方1263-2

保育者のかかわり（環境構成等）について記録を整理した。

なお、調査対象者および保護者には、文章および口頭で、研究の趣旨、記録と公表の方法、個人情報の保護を説明し、調査への参加は任意であり、不参加によって不利益を受けないこと、観察記録を報告書や論文等として公表することはあるが、個人が特定、推測されるような可能性がある方法で公表することはしないことを伝え、同意を得て調査を行った。

3. 結果と考察

（1）4月当初のE子の姿

E子（5歳10ヶ月）は、父（32歳）・母（31歳）・祖父（68歳）、祖母（65歳）・弟（4歳）・本人の7人家族である。調査開始1ヶ月前の3月に母親の実家に引っ越して祖父母と同居を始め、3月から本園に入園している。

4月当初のE子は、新しい環境に馴染めず、母親から離れられず、泣く姿が見られた。5歳児クラスの部屋にもなかなか入ろうとせず、保育者のそばについて歩くことが多かった。また、1歳年下の弟や3歳児クラスの部屋で遊ぶ姿も見られた。保育者やクラスの友だちが誘うと、一緒に遊びに参加していた。自分の思いは口に出して言うことができるが、基本的には恥ずかしがり屋である。

（2）E子の1年間の育ち

E子の1年間の育ちを表1に示す。表1から次のような様子が伺える。4月下旬は、保育者に誘われてチューリップを見て、友だちと話す姿や種に興味を持つ様子が伺える。5月は、チューリップの種や球根を保育者に見せてもらって「ちいさい」と驚き、花を折った球根に比べて「ちいさいのでかわいそう」と種に対する思いやりが感じられる。6月は、保育者や友だちと一緒に田んぼ作りや田植えに参加し、満足している様子がうかがえる。7月は、友だちと一緒に水やりをして積極的に田んぼにかかわっている様子が見られる。8月は、稲作りを祖母に聞いて母親に書いてもらった紙を保育者に渡していることから、稲作りに興味をもっていることがうかがえる。9月は、友だちと一緒に積極的にかかし作りに参加している。10月は、全員で稲刈りをして、うまく刈れたことを友だちと喜ぶ姿が見られる。11月は、友だちと一緒に籾殻をむき、みんなで作った米でおにぎりを作り、「みんなと食べるからおいしい」と楽しんで食べていることから、みんなで作ったという喜びと満足感と充実感が伝わってくる。12月は、むずかしいしめ縄作りに友だちと一緒に参加し、1月は、友だちと話し合いながら楽しそうにとんど焼きに参加している。2月は、綿の中の種を出したり、3月はポケット図鑑を自分から用意したり花の名前を積極的に言っていることから、植物に対する興味関心がうかがえる。さらに、A子の「はるのおみやげ」に

共感して「きょうきてよかった」というE子の姿から、自然に対する感性の豊かさとともに、友だちと一緒にいることの喜びや、友だちと春を一緒に楽しめたというあたたかな人間関係の広がりが感じられる。

（3）E子に対する保育者のかかわり

E子は、園に転入してから卒園するまでの1年の間に、自然とのかかわり方に変化が見られた。E子は4月当初からチューリップの球根や芽について疑問を持ったり比べたりするなど、積極的に自然にかかわる姿が見られていた。しかし、そのかかわり方は、E子1人が自然とかかわる姿が中心であった。保育者は、チューリップの色で意見が分かれた子どもたちに対して答えを出さないようにすることでE子の発言を引き出すなどして、クラスに馴染めるようにしていた。5月になり、E子は保育者の後について歩くことがなくなり、友達とともに行動するようになっていた。園での生活に慣れてくると、自然とのかかわり方も、自分1人ではなく保育者、友だち、家族など他者とともにかかわる姿が見られるようになった。6月は保育者や友だちと一緒に田植えに参加し上手にできたことに満足したり、8月は稲の作り方を祖母に聞いて母親に紙に書いてもらったりするなど、他者とともに自然にかかわる姿が見られるようになった。E子は他者と一緒の時は積極的に自然とかかわっている。保育者は、その点を重視しE子が他者と接する機会をより多く提供した。その結果、秋以降はE子がさらに積極的に他者とともに自然に接する姿が見られた。10月のかかし作りでは「わたしもスカートをつくる」「おはなもつけよう」と発言したり、11月の収穫祭では「みんなで食べるからおいしい」と言ったりするなど、友だちとともに自然に接することに対して喜びや満足感、充実感を得ている様子が見られた。保育者は1年間を通してE子の自己肯定感やコミュニケーション能力、思いやりの心をはぐくむように環境を整え導いていた。

（4）5歳児クラスに対する保育者のかかわり

保育者は、動植物に対する興味の引き出し、田作りから米の収穫、しめ縄づくり、とんど焼きまでの一連の実践をととして保育内容「環境」のねらい及び内容を保育に反映させていた。また、子どもが十分に自然に触れたり、友だちと体を使って遊んだりできるように、1年間を通して事前に物的、心的“環境構成”を整えていた。さらに、保育者は子どもに共感したり見守ったり援助したりしながら一緒に稲作りに参加しており、“子どもとともに自然にかかわること”を意識しながら子どもの生活を導いていた。

保育者は、日々の園生活の中で子どもたちが周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわりやすいように環境を設定していた。4月はチューリップの色で意見が分かれた子どもたちに対して保育者は答えを出さず、子ども

たちに問題解決の方法を考えさせていた。また、チューリップに種ができることを気付かせ、球根と種を比較させながら、球根を育てるためになぜ開花後に茎を折るのかその理由を子どもたち自身で導かせている。6月は子どもと一緒に園の近くの田んぼを見ることにより、子ども達の田植えをしたいというきっかけを作っている。保育者は、子ども達の身近な所に体験できる発泡スチロール製の田んぼを作り、子ども達と一緒に田植えをしている。しかし、大きな田んぼに入った経験がある子どもがクラスに一人もいないことに気づき、近所の農家に頼んで子どもたちを田んぼの中に入れて代掻きと苗植えをさせてもらっている。子どもたちははじめての泥の感触を足や手で感じ、楽しみながら夢中で遊び込んでいる。8月に入り、稲への子どもたちの関心が薄くなったと感じた保育者は、園長に稲の育て方などの話を依頼して子どもたちの関心を再び高めている。9月は、スズメが米を食べている姿を子どもたちに発見させ、稲が実るとかかし作りが必要であることを気づかせて、かかし作りに取り組む。稲刈りについては、鎌は危険であることを知らせたり、見守ったり、保育者が手をそえたりしながら、自分たちの手で稲を刈ったという気持ちを持たせるようにしている。収穫祭では、おにぎり作りをし、しめ縄作りに子ども達とともに参加している。とんど焼きでは、田んぼ作りからとんど焼きまでの一連の行事を振り返る話をして、自然環境と行事の関係を気付かせている。

一般的に、保育者の思いが強くなりすぎると考えを押し付けたり、子どもたちの素直な考えを壊したりしがちである。本研究の対象事例では、保育者が十分な環境構成を行い、子どもとともに自然にかかわっていたことで、子どもの行動や心の動きにゆとりをもって対応することができていた。ベネッセの調査（ベネッセ教育総合研究所 2016）で「遊びこむ経験」が多い子どもが「学びに向かう力」も高いことが明らかになったが、調査対象の保育者もこれまでの保育経験から自然に子どもに遊び込みの経験をさせていたのだと考える。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、ならびに幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、2017年の告示を経て、2018年度から施行される。幼稚園教育要領では、育みたい資質・能力として「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱が掲げられる。この柱が掲げられた背景には、非認知能力を重視するという考えがある。これまでも日本の保育において非認知能力と重なる部分が多い「心情・意欲・態度」は大切にされてきた。しかし、遊びを通してこれらを学ばせる保育が社会的に理解されているとは言えない状況であった。今回の改訂により、非認知能力を育てる保育者のかかわり方が社会に理解されるきっかけとなると考える。そのためにも、実践研究からより良い保育の方法を導き出すことが改めて重要となっている。

謝辞

この研究は、岡山県井笠管内三郡保育協議会の13園の代表保育士とともに5年にわたり「心が育ち合う保育をめざして―自然とのかかわりを通して―」について研究したものを資料としている。この研究にあたり、ご協力いただきました三郡保育協議会の先生方に厚く御礼申し上げます。

文献

- 1) 青少年の野外教育の振興に関する調査研究協力者会議、「青少年の野外教育活動の充実について（報告）」、文部省、1996
- 2) Brown, S.C. & Craik F.I.M., Encoding and Retrieval of Information, The Oxford handbook of memory, pp.93-107, 2000
- 3) 独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等に関する実態調査」（平成24年度調査）報告書、2012
- 4) ベネッセ教育総合研究所、「園での経験と幼児の成長に関する調査」、ベネッセ教育総合研究所、2016
- 5) Bowles, S., Gintis, H., & Osborne, M. (2001). The determinants of earnings: A behavioral approach. *Journal of economic literature*, 1137-1176.
- 6) Heckman, J. J., & Rubinstein, Y. (2001). The importance of noncognitive skills: Lessons from the GED testing program. *American Economic Review*, 145-149.

表 1 5 歳児 E 子の一年間の育ちと保育者のかかわり

| | E 子の姿 | 保育者のかかわり | | |
|-----|--|---|---|--|
| 4 月 | <p>友だちが口々に言うのを聞きながら E 子は「しろにピンクがまじつとる。きれいじゃなあ。」と言う。</p> <p>N 子が「せんせい、しょうがつこのせんせいにきいてみる？」と言うのを聞いて、E 子が「せんせいわからんときにはきいたほうがええよ。」と言う。</p> | <p>隣の小学校の花壇を見た T 男が「くろいチューリップがさいとる。」と保育者に伝えに来たので、クラスの子ども達に声をかけ、一緒に見に行く。</p> <p>E 子のチューリップを見ている姿を見守る。</p> <p>T 男「このチューリップはくろじゃなあ。せんせい。」と言い K 男が「ちがう。むらさきじゃ。」と言うので「どっちじゃろかな。」と言って一緒に考える。</p> <p>小学校の先生にチューリップの色を聞いて、翌日に紫色であることをクラス全員に伝える。</p> | <p>描かれている図鑑を指差したり、J 男が煮干しを入れる容器を探したりするのを見ている。</p> <p>A 子・J 男・K 男が図鑑を見ながら話しているのを聞く。</p> <p>K 男が図鑑を見て「スプレーでこんなことしてるよ。」と保育者に尋ねているのを聞く。</p> <p>「せんせいやってみて。」と言う。</p> <p>保育者が霧吹きで水をかけている様子を見て、「わたしもやらせて。」と言ってくる。</p> <p>保育者に霧吹きを渡してもらいケースの中に水をかける。</p> | <p>「これはねえ、土が乾かないように霧吹きで水をかけるんよ。」と知らせる。</p> <p>「じゃあ、やってみるよ。」と言って霧吹きで水をかける。</p> <p>E 子に霧吹きを渡す。</p> <p>E 子やクラスの子どもたちが水をかけている様子を見守りながら「だんご虫さんに毎日土が乾かないようにやってね。海になるまでやらないでね。」と約束事しておく。</p> |
| | <p>保育者とともに小学校の花壇に行く。</p> <p>E 子が「かぜがふいてあめがふったんじゃ。」と言う。</p> <p>T 男が「チューリップのたねをみてみたい。」と言うと、E 子も「みたい。」と言う。</p> | <p>チューリップが散って終わりがけている様子に気づいてほしいと小学校の花壇に散歩に出かける。</p> <p>「そうじゃなあ。この前の風や雨で余計に落ちたんじゃね。」と E 子の思いに共感する。</p> <p>「種を見てみたい。」と言う子どもの気持ちを大切に認め、「チューリップの実が大きくなるまで待とうかな?」と言って種への期待を持たせる。</p> | <p>保育者の田んぼ作りを手伝う。</p> <p>Y 男・T 男などクラスの男の子たちが代掻きをする様子を見ている。</p> <p>交替して代掻きをしながら「にゆるするなあ。」と声をあげる。</p> <p>田植えをする。</p> <p>苗を植えながら「じゅんぼんじやがなあ。」と言うのを聞いて、Z 男と口をそろえて「そうじゃ、そうじゃ。」と言う。</p> <p>自分の植えた苗を見ながら「M ちゃん、じょうずじゃろ。」と言う。</p> | <p>田植えの準備や苗植えを見るために園外保育に出かける。</p> <p>園庭の南側を耕したり草取りをしたりして田んぼ (1.5m×1m) を作る。</p> <p>遊びが十分楽しめるよう時間や場の確保をする。</p> <p>見守る。</p> <p>田植え用の稲の苗を用意する。</p> <p>クラスの子もたちに苗を見せながら苗の持ち方、植え方を知らせる。</p> |
| 5 月 | <p>チューリップの実を見て「せんせい、ちいさいなあ。」と言う。</p> <p>J 男が「はようさくけえ、きゅうこんのほうがええな。」の声を聞いて、E 子は「たねはかわいそうじゃなあ。」と言う。</p> | <p>A 子が「チューリップのたねできているかな。げんきないよ。」と種のことを聞いてきたので、チューリップの中身を見ようとクラスの子ども達に声をかける。</p> <p>包丁とまな板を用意し、チューリップの実を切って見せる。</p> <p>「そうだね。ちいさいからおおきくなるまでにずいぶんかかるんよ。」と E 子の気づきを受け止めながらチューリップの生長について知らせる。</p> <p>種をとった球根と、花を折った球根の違いに気づいてほしいと思いい、2 つの球根を並べて見せる。</p> <p>E 子の種に対する思いを受け止めてうなずき見守る。</p> | <p>あさがお、花壇や田んぼなどに水やりをする。</p> <p>T 男「たんぼのなかにみどりのちいさいきみたいなはっぱができとるんで。みてみ。」と言うのを聞いて A 子・B 子・C 子と一緒に田んぼの様子を見に行く。</p> <p>保育者の所へ帰った A 子・B 子達と田んぼの様子を話す。</p> <p>A 子が「うちのたんぼにもある。」と保育者に言うのを聞いて、「うちにもある。」と答える。</p> | <p>E 子の様子を確認うなずく。</p> <p>植えた後はどうしたらよいかをみんなに投げかけ一緒に考える。</p> <p>子どもたちの意見を認め、家で聞いてくることを約束する。</p> <p>E 子やクラスの子どもたちが水やりをしたり田んぼの様子を見たりしているのを見守る。</p> <p>子どもたちが不思議に思っ話し合いをしている様子を見ながら「そうだねえ。」とうなずく。</p> |
| | <p>保育者がダンゴムシを飼うためのケースを用意しているのを見て、E 子は「なにがおったん。」と言いつつ A 子・H 子・K 男のそばに寄って一緒に見る。</p> <p>Y 男が図鑑を見ながら「いしをいれたほうがいいよ。」と言うのを聞いて「はっぱもいれんと。」と言う。</p> <p>E 子は自分から園庭にはっぱを探しに出かける。みどりのはっぱを探してくる。</p> <p>J 男が「ちやいろのはっぱでねえといけん。」と図鑑を見て言う。</p> <p>E 子はカイツガイブキの木の下から落ち葉を拾ってくる。</p> <p>A 子「これがある。」とえさのリゾやキャベツ、煮干しなどが</p> | <p>ダンゴムシを探している H 子・K 男を見守る。</p> <p>A 子「せんせいケース出して」というのを聞いてケースを目につきやすいところに置く。</p> <p>E 子の様子を見守る。</p> <p>子ども達の遊びを見守りながら一緒に遊びに参加する。</p> <p>「本当だね。落ち葉と書いてあるね。」と T 男の気付きを認める。</p> | <p>自分達の田んぼの様子を見る。</p> <p>A 子「せんせい話を聞いたり肥料を与える様子を見たりする。</p> <p>C 子「しっかりめんどろみんといけん。」Y 男「よそのたんぼよりぼくらのたんぼのほうがきれいにできる。」という C 子や Y 男の発言を聞いて「稲ができるまで水やりをしよう。」と言う。</p> <p>保育者の話をじっと聞く。</p> <p>登園時に「せんせい、これ。」と言って稲の作り方を書いてもらった紙きれを渡す。</p> <p>「おばあちゃんにきいて、おかあさんがかいてくれた。」と嬉しそうに答えた。</p> <p>Y 男「いねのいろがかわつてる</p> | <p>稲に関心が薄れ、水やりも遠のいているので、周辺の田んぼを見るために園外保育に出かける。</p> <p>園長が稲作りの話をする。</p> <p>「お米がどうやったらできるかおうちのの人に聞いてごらん。」と話す。</p> <p>E 子が手渡した用紙を受け取り見る(稲作について書かれている)。</p> <p>「だれが書いたの?よく覚えていたねえ。」と、しっかりほめる。</p> <p>「みんなにも見せてあげようね。」と黒板に貼る。</p> |
| 6 月 | <p>保育者がダンゴムシを飼うためのケースを用意しているのを見て、E 子は「なにがおったん。」と言いつつ A 子・H 子・K 男のそばに寄って一緒に見る。</p> <p>Y 男が図鑑を見ながら「いしをいれたほうがいいよ。」と言うのを聞いて「はっぱもいれんと。」と言う。</p> <p>E 子は自分から園庭にはっぱを探しに出かける。みどりのはっぱを探してくる。</p> <p>J 男が「ちやいろのはっぱでねえといけん。」と図鑑を見て言う。</p> <p>E 子はカイツガイブキの木の下から落ち葉を拾ってくる。</p> <p>A 子「これがある。」とえさのリゾやキャベツ、煮干しなどが</p> | <p>ダンゴムシを探している H 子・K 男を見守る。</p> <p>A 子「せんせいケース出して」というのを聞いてケースを目につきやすいところに置く。</p> <p>E 子の様子を見守る。</p> <p>子ども達の遊びを見守りながら一緒に遊びに参加する。</p> <p>「本当だね。落ち葉と書いてあるね。」と T 男の気付きを認める。</p> | <p>自分達の田んぼの様子を見る。</p> <p>A 子「せんせい話を聞いたり肥料を与える様子を見たりする。</p> <p>C 子「しっかりめんどろみんといけん。」Y 男「よそのたんぼよりぼくらのたんぼのほうがきれいにできる。」という C 子や Y 男の発言を聞いて「稲ができるまで水やりをしよう。」と言う。</p> <p>保育者の話をじっと聞く。</p> <p>登園時に「せんせい、これ。」と言って稲の作り方を書いてもらった紙きれを渡す。</p> <p>「おばあちゃんにきいて、おかあさんがかいてくれた。」と嬉しそうに答えた。</p> <p>Y 男「いねのいろがかわつてる</p> | <p>稲に関心が薄れ、水やりも遠のいているので、周辺の田んぼを見るために園外保育に出かける。</p> <p>園長が稲作りの話をする。</p> <p>「お米がどうやったらできるかおうちのの人に聞いてごらん。」と話す。</p> <p>E 子が手渡した用紙を受け取り見る(稲作について書かれている)。</p> <p>「だれが書いたの?よく覚えていたねえ。」と、しっかりほめる。</p> <p>「みんなにも見せてあげようね。」と黒板に貼る。</p> |

5歳児と自然のかかわり（2）

| | | | | | |
|-----|--|---|--|---|--|
| | で。」のことにほかのクラスの友だちR男・Y男・Z男など5名と田んぼの様子を見に行く。 | 見守る。 子どもの気付きを受け止める。 | | 「このおこめでくりごはんがたべたい」などと言う。 | |
| 9月 | 0男「ぼくのうちのちかくのはヘルメットかぶるとで」、S子「おもしろいかみをしとるなあ。」とロケに言う。 S子「おこめをとられんようしよんで。」と言う言葉聞いてE子が「おばあちゃんがいうたよ。」と話す。 「どうして知っているの？」と聞く。 Y男「そうじゃ。びっくりさせるんじゃ。」、K男「こおうねえで。」と言うのをE子は黙って聞いている。 | 小学校校庭のかかしを見つめる。 かかしを見て子ども達に「これ、何とつか知ってる？」とたずねる。 | | I男「せんせい、あついなあ。まるおにぎりでもええ。」、K男「ぼくバナナにしてたべるぞ」、N子「くりがはいつとるで。」などの声に、E子が「みんなでたべるからおいしい。」と言う。 | 「みんなの作ったお米でおにぎりを作しましょう。」と作ることを知らせる。 衛生面に配慮する。 ラップを切り、あたたかいごはんをのせていく。 子どもたちと一緒ににおにぎり作りを楽しんだり、食べたりする。 |
| | 保育者が、かかし作りの材料を用意した後田んぼに行くのを見て、A子・B子・K子と一緒に来る。 N子「スカートつくる。」、E子「わたしも」と言ってスカートをナイロン袋で作る。さらにE子「おはなもつけようや」と言う。 | I男が「せんせい、すずめがおこめをたべとる。」と言って来たので、稲穂の垂れ下がっているところへ保育者が行く。 T男「せんせい、かかしは?」、Y男「そりゃあ、たけがいる」、O男「ぼうしがいるで」と、言うのを聞いて、かかし作りの材料を準備する。 できあがったかかしを子どもたちと田んぼに立てる。 | K子「おばあちゃんに教えてもらったからできる」、I男「ちょーむずかしい」とロケに言うのを黙って聞いている。 「むずかしかったけどおもしろかった。」と言う。 | | 園長先生がしめ縄作り（簡単なもの）の話をクラス全員にする。 遊戯室にシートを敷いて、わらと水を用意し、しめ縄作りの環境を整える。 作り終えたE子に「いちごさん（簡単なしめ縄）をつくってみてどうだったかな?」とたずねる。 袋に入れて持ち帰り、家で飾るように約束をした。 |
| 10月 | 稲刈りの話を聞く。 Y男が「ぼく一番にやりたい。」と言って稲刈りする。Y男が一刈りした後、ほっとした様子で「おもしろーで」と言う。 K男・K子・O男・I男が刈るのをじっと見ている。 順番がきてE子が稲を刈る。 「きれてよかった。」と、ほっとした表情で友だちに話しかける。 | 園の隣の稲刈りの終わった田んぼの様子を子どもたちと見る。 自分達で稲を刈ることを知らせ、かまの使い方を知らせる。 危険のないように見守ったり、手を添えたりして稲刈りする。 「ほんとと鎌なんかもったことないもんね。」とうなずき、思いにそう。 | | 園で作ったしめ縄を家から持ってくる。 しめ縄飾りを焼いているのを見て「おちそう。」と言いながら、お餅を焼く。 I男「すみがついてもおいしかった。」、T子「おもちがおちそうになった。」と言うと「わたしもおちそうになったけどもちあげた。」と話し合う。 | お正月に飾っていた飾りをとんど焼きにするので持ってくるように全員に話をする。 とんど焼きをする。 田んぼ作りからとんど焼きまでの一連のつながりについて話す。 |
| | 保育者が持ってきた稲束を見る。 穂先から手でむいてもみを採る。 K男とI男が「できる。できる。」「やる。やる。」と言うのを黙って聞いている。 「こりやかたいわ。つめがいてえ。」「ちよつとさきをつぶしてむいたらええ。」とロケに話している。 E子はY男・I男・S男と一緒にもみからをむく。 「なかなかむけん。」と言ってS子に教えてもらって皮をむき「ひとつむけた。」とほっとした表情で次に取り組む。 「2個目からはかんたんじゃ。」 | 干している稲束を集めて子どもの所へ持ってきて、稲の穂から籾を取る姿を全員の子どもに見せる。 「みんなの作ったお米でおにぎりを作るけど、このままじゃ食べれんよね。この籾一粒ずつ皮をむいてお米にしたいんよ。どうかなあ。」と話す。 子ども達が籾殻をむいている様子を見守る。 | | 綿の中の種を取り出す。 E子「せんせい、このわたどうするん?」「イチゴをつくる。」「ふくろにいれるんじゃ」と言う。 | 前年、園で収穫したわたを机の上の箱に入れて、出しておく。 綿の種取りを誘う。 Y男の「ぜひもちかえりたい」という声から、全員が持ち帰りたいという気持ちになったことを温かく見守る。 子どもたちの作りたい気持ちを大切に、年少児へのプレゼント作りしようと言かけをする。 |
| 11月 | | | | 風邪で長く休み、久しぶりに登園する。 ポケット図鑑を小さなリュックに入れて出かける。 歩いている途中でK子が「せんせい、このあおいはな、おおいぬのふぐりいうんじゃがなあ。」と言うと、E子「そうじゃ。せんせいが、まえいようたがー。」と答える。 つくし取りをする。 A子「はるのおみやげ。」と言ってMせんせいにつくし2本をあけているのを見て、「せんせいきょうきてよかった。」と話す。 | つくし取りの園外保育に出かける。 子どもの声にうなずく。 全員がつくしを取れるようにつくしと一緒に探す。 園に帰る。 E子に「本当に治ってよかったねえ。春も探せたいなあ。」と言って共感する。 |

